

特別決議

2008年北京オリンピックに関する国際武術連盟への緊急提案

2005年1月22日

社団法人日本武術太極拳連盟第32回総会

武術を2008年北京オリンピックの正式種目にするために、国際武術連盟、中国オリンピック委員会の指導部および中国国家指導者の関係各位が真剣なご努力を傾注されていることにたいして、日本武術太極拳連盟の全会員は衷心より感謝と敬意を表すものであります。

本連盟は2003年1月25日付け本連盟第28回総会の特別決議として、国際武術連盟にたいして緊急提案を行ないました。この提案は、国際武術連盟が国際オリンピック委員会に申請している武術套路競技の種目案に関するものであります。

わたしたちは、今年上半期に、国際武術連盟、北京オリンピック組織委員会と国際オリンピック委員会との間で、武術套路競技にたいする最終的な折衝がすすめられるものと理解しています。2003年に本連盟が緊急提案を行なった内容を、下記の通り、重ねて提案いたします。

国際武術連盟におかれましては、この提案を十分に考慮していただいたうえで、国際オリンピック委員会との折衝に当たっていただくようお願い申し上げます。

緊急提案事項：

戦略的にメダル数と種目内容を確定する；

現在、国際武術連盟が申請している8種目の套路種目は、今後のIOCとの対応のなかで合理的に整理することが求められる可能性が大きいと思われます。その際に、私たちは国際武術連盟が、過去の国際武術運動の実績と将来の発展の方向性をともに踏まえたいうでの合理的な決定を行っていただくことを強く希望します。

日本武術太極拳連盟は、国際武術連盟がIOCとの対応のなかで、「長拳三種総合」、「南拳三種総合」、「太極拳二種総合」で、男女6種目とすることを、追及していただくことを強く希望します。

この6種目からなる武術競技は、アジア地域のオリンピックと言うべきアジア競技大会において1990年の北京での第11回アジア競技大会から正式実施競技となり、2002年の韓国・釜山での第14回アジア競技大会まで連続4回も行われ、2006年カタールで開催の第15回大会でも実施されることが決定されています。この実績を私たちは誇りに思います。

現在のオリンピック種目28競技のなかで、アジアが発祥の競技は「柔道」と「テコンドー」の2競技だけで、いずれも格闘技種目であります。私たちは、武術が、哲学、医学、芸術、教育などの広範な分野で高度な東洋的文化の要素を全面的に備えているスポーツであることに、あらためて自信と誇りを持つべきであります。武術套路競技をオリンピックに導入することで、アジアから世界に、平和と健康に貢献するスポーツを加えることの歴史的な意義を強くアピールすべきであります。

日本連盟は、2002年9月に、IOC会長に向けた署名と国際武術連盟への募金の緊急行動を行いました。2008年北京オリンピックでの武術の正式競技種目実現のために、日本連盟の全会員は国際武術連盟にたいして、今後もしできる限りの協力を惜しまないことを申し添えます。

以上